

【仏教用語】

- ・ 真如…………… 宇宙不変の法則
(真の如し⇒本物の様な⇒偽物 という解釈ではありません)
- ・ 大日如来…………… 大きな日(光)が来るが如し
- ・ 施無畏の力… 畏れの無い=相手に絶対的な安心感を与える力
(施無畏者とは、観音様のように安心して頼れる方の事です。)
- ・ 阿弥陀様…………… 無量光 (無量大数=漢字で表せる最大の数の単位)

【お経について】

お経とは本来、お釈迦様が肉体を持った人間に対して“このように生きよ”と、正しい生き方を説いたものなので、肉体を脱ぎ捨てた死者に対し誂誂する事はお経の目的外の行為です。

そのため、お経によって亡くなった方の魂を天国(極楽)に導くことは出来ません。

★ お釈迦様が教えを説いた時代には文字が無かったので、口伝のみで継承されていました。時代が進み変わり文字が出来て文章化されましたが、長い年月を口伝で伝えられたので、釈迦の説いた内容とは変わってしまったものが多いのです。

霊格が高い方がまとめた文章は、霊格の低い方が読んだ場合、全体を正しく理解することが出来ません。
同じ内容の事でも霊格によって理解度が変わるので、間違った解釈をしてしまいます。

～勉強会の中で紹介されたお経～

●般若心経 (仏教の全ての宗派で最も重要とされているお経です)
智慧ある者はこうするものだということが示されているお経です。

※関連《49P》【虚の世界】

●大般涅槃経 (真如苑の教えの元になっているお経です)
いろいろな動物の足跡があるが、象の足跡が一番大きい。
その一番大きい象の足跡のように、この教えは一番偉大で尊いという前置きの後、過去の事を悔やんではならないということが示されているお経です。
農民は、春に種を蒔き、草取り等をして育てて、秋に収穫を迎えます。
その時に、冷害の時にもっと水を入れておけば良かった等、あの時、ああすれば良かった、こうすれば良かった等、そういう事を悔やまないのです。
しかし、何年か後にまた同じような現象が起こった時に、その経験が生きるのです。
等々過去の事を振り返って悔やまないようにと示されています。

●観音経（仏教の全ての宗派で重要とされているお経です）

“観音様、助けて下さい！”と祈れば、何があっても必ず助けて下さることが示されているお経です。

5 海が荒れて船が難破なんぱしそうになっている時に、乗船者のうち1人でも“観音様、助けて下さい！”と祈れば、荒波が治まって助けますよ。

毒蛇等に襲おそわれそうになって絶体絶命の時でも、“観音様、助けて下さい！”と祈れば、たちまちのうちに退散ぞくして助かりますよ。

賊おそに襲われて刀で斬きられそうになった時でも、“観音様、助けて下さい！”と祈れば、刃がボロボロになってしまって助かりますよ。

10 等々のことが示されています。

日蓮上人にちれんしょうにんは、佐渡に流された時に、2回打ち首になりかけました。

しかし、1回目は、どうしても執行役が刀を振り下ろすことが出来ずに助かり、2回目は、やっとの思いで振り下ろしたものの、刀が刃こぼれして、首を切り落とすことが出来なかったので助かったということです。

15 観音様は、何があっても助けて下さる御方おかたですので、苦しい時、辛い時に“観音様、助けて下さい！”と祈ると、負担を軽くして下さいます。

但し、これは消すべきカルマや、与えられた鍛えの全体量が減ったのではなく、先送りになったということです。

20 ローンの返済に例えると、1回あたりの支払い金額を減額し、返済の回数を増やして期間を延長したことになります。

反対に、“どんどん鍛えて下さい！”と祈って、更に大きな苦しみや辛さを感謝で乗り越えていくと、その時の負担は増えますが、期間は短くなるということです。

本当に良い世界に行くためには、天国にいらっしゃる方と同じ考え方、行動ができるよう
25 にならなければなりません。